

0 話

いらっしやいませ、お客さん

今日は宿泊かしらあ？それともお食事？

……つて、あら……あなた、今日も来てくれたのぉ？

先週も泊ってくれたわよね？

なあに？ここがそんなに気に入ったのかしら

確かにここは街の皆に愛される宿屋だけだお……もしかしてアタシが目当てだったり、する？

あは、冗談よお

この宿屋は居心地がいいって評判だから……あなたもそういう理由で来たんでしょお？

実家みたいだつて言ってくれる人も、たくさんいるのよお

アタシをお母さんみたいに思ってる人も結構いてえ……困っちゃうわよねえ

アタシはこの宿屋の女主人として数年はやってるけど、まだまだ女としての欲望は捨ててないわあ

確かに世話焼きなのは認めるけどねえ

あら、いけない

つい話し込んでしまったわね

それで？今日は一泊？それとも長期滞在の予定？

今の時期は空いてるから、どの部屋も取り放題よお

薄暗い部屋もあるし日の当たる部屋もあるわ

ちなみに薄暗い部屋は盛った若者達に人気の部屋よ

近くの部屋だったら、声が聞こえてきちゃうかもねえ……ふふ

もし騒がしいのが嫌なら、突き当りの部屋をおすすめするわあ

確か前は……2階の突き当りに泊まったんだったかしら

もちろん前と同じ部屋でも大丈夫よお

うん？前と同じでいい？

了解したわあ、じゃああなたの部屋は32番の部屋ね

……あは、ちゃんと部屋番も覚えてるわよお

大事なお客さんのことだもの

一度でも泊ってくれたお客さんのことは忘れないわあ

あ、それと泊る日数ね

何日でも大丈夫だけど……ん、1週間ね

全然問題ないわあ、むしろ長く泊まってくれるお客さんは大歓迎よお

鼻屑にしてくれるお客さんには、アタシがサービスしてあげちゃうんだから<sup>3</sup>

……んー？どんなサービスか気になるって顔ねえ

ふふ、内緒よお

それにそのサービスは、アタシが見込んだ人にしかしてあげないの

そのサービスを受けたいんだったら、アタシの機嫌を取るのが1番よお

そうねえ……例えば、たくさんお金を貢ぐ、とか

……あはっ、冗談冗談！

アタシは悪女じゃないからそんなの望まないわあ

ただあなたはこの宿屋でリラックスしてればいいの

安らいでるお客さんの顔を見ることが、アタシの幸せなんだから

だから、あなたもゆっくりくつろいで

部屋に荷物を置いてきたら、またお話ししよう？

アタシ、この時間はとっても暇してるから

あなたみたいな話しやすい人がいると、とっても助かるわあ

じゃあ……また後でね、カッコイイお客さん

1話

あら、こんばんはあ

今からおでかけ？

外はもう暗くて肌寒いけど……お買い物かしら

……ああ、ご飯を食べに行くのね

でもどうして？食堂ならこの宿屋にもあるけど

……人が多いからやめておく？ああ、そういえばあなたは人が多いのがあまり

好きじゃなかったわねえ

ごめんなさいねえ

ここの食堂は宿泊客以外の人にも開放してるから、近くの人達も来ちゃうのよね

ここ数日あなたを食堂で見かけないと思ったら、外で食べてたのねえ  
気をつかわせたみたいで申し訳ないわあ

……全然気にしてないの？あなた、優しいのね

荒っぽいお客さんもいるから、あなたみたいな優しい人と話すととっても安心するわぁ

色んなことしてあげたくなっちゃう

例えば……ほら、前に言ってたサービス、とか？

……あはっ、動揺してる

なあに？そんなにそのサービスの内容が気になってたのお？

ていうかあなた……いつも私に熱い視線を向けているわよねえ

6

何日も前からずっと……そんなに見つめられたら、いくら私でも照れちゃうわぁ  
あ

……ふふ、もちろん気づいてたわよぉ

熱のこもった視線って、とっても分かりやすいのよぉ

熱くて、情熱的で、思いがこもっていて……あなたの視線、真っすぐ過ぎてこっちが恥ずかしくなってくるのよねえ

アタシ、見られることには慣れてるんだけど……あなたみたいに真っすぐに見てくる人、初めてかもしれないわあ

ああ、ごめんね

決してあなたを責めてるわけじゃないのよお

むしろ褒めてるの

でも、どうしてそんなにアタシのことが気になるのお？

……あら、アタシが初恋の人に似てたから、ずっと気になってたのお？

へえ……そうなの……なんだかロマンチックねえ

7

ふふ……そんなに私のことが気になるって言うならあ、とおってもいいサービスがあるわ

さつきも話した、特別なお客さんにしか提供しない最高のサービス……どう？

興味あるかしら

……あはっ、もちろん興味あるわよねえ

その食いつきっぷり、まるでフンちゃんみたいよお

……ふふ、この言い方は失礼かしら？

いや、あなたの場合……むしろ嬉しそうね

これなら大丈夫そう

ん？今のがどういう意味か気になる？

大丈夫、その内分かるわあ

このサービスは、あなたみたいな人にピッタリのサービスだからあ

じゃあ早速……と言いたところだけど、まずは腹ごしらえね

ゆっくりご飯を食べて、お腹を満たしてからにしましょう

アタシもまだやることがあるしね

そうねえ……ご飯を食べて帰ってきたら、自分の部屋で待っててねえ

アタシもやることを片づけたら、あなたの部屋に行くから

それまではゆっくりしていて

はやる気持ちを抑えられずにアタシの様子を見に来たりなんかしちゃダメよお

あなたがお利口さんなら、アタシの指示をちゃんと守れるわよね？

……よしよし、とってもいい子よお

それじゃ、また後で会いましょう

それと分かつてると思うけど……アタシとこんな約束をしたこと、誰にも言  
っちゃダメだからねえ

アタシの言うこと……ちゃんと聞くのよ、ワンちゃん

2話（表）

こんばんわあ

お待たせしちゃったかしらあ？

それとも気分が昂って、すぐ時間が過ぎたように感じた？

ん？その両方？

あはっ、面白い人ねえ

そんなに正直に言わなくなたって、はぐらかしたって全然いいのよお

もしかしてあなた……嘘が苦手なのかしらあ？

あらあ……よりいっそうアタシの好みよ、あなた

真面目で嘘のつけない人って、中々いないものなのよお

アタシに気がある男は、ほとんどの人がカッコつけようと嘘をつくの

こんな偉業を成し遂げた、これだけの財産を築いた、こんな有名人が知り合い

にいる……アタシにとってはそんなこと、どうでもいいのに

そんな形だけの名誉より、あなたみたいにアタシを真っすぐ見つめてくれる人の方がよっぽど魅力的だわあ

ていうか……ほら、突っ立ってないで早くそのベッドに座ったらどう？

ここはあなたの部屋なんだから、もっとリラックスしていいのよ

アタシがこれからするサービスは、別に性的なものじゃないんだから

……あら、がっかりした？

がっかりさせたならごめんなさいねえ

アタシは元娼婦だけど……今はもう宿屋の女主人なの

そういう直接的なサービスは提供できないのよねえ

でも……でも、ね

間接的なサービスだったら、いくらでも提供できるわあ

ふふ……どういふことか理解できないって顔ねえ

大丈夫、今からきちんと教えてあげるわあ

アタシが提供するサービス、その内容をね

とは言ったものの……アタシがすることはシンプルよお

あなたに、アタシの過去を聞かせてあげるの

娼婦だった頃の経験談を……こと細かに、ね

ただそれだけのサービスよお

肩透かし……なんて思わない方がいいわ

なんせアタシの過去は、普通とは言えないでしょうからねえ

きつとあなたに色んな感情を抱かせてくれるはずよ

嫉妬、後悔、興奮、怒り……あなたが気になってる人がこれまでどんな経験を

してきたのか、アタシの話を聞いて精一杯イメージしてみてねえ

初めての今回は……そうねえ、まずは刺激の少ない話からいきましようか

アタシが娼婦だった頃、仕事帰りに荒くれ者に襲われた話なんだけど……

どお？ 気になるかしらあ？

……あは、早く聞きたいって感じね

了解したわあ……じゃあ早速、始めていくわね

これはアタシが娼館で働いてた時の話なんだけどねえ？

娼婦って、基本的に夕方頃に仕事場に向かって、夜中までお客さんの相手をするの

娼館で相手をもてなすこともあれば、相手の家に出向くこともあったわあ

アタシは結構色んなお客さんから人気があつてね？

帰る時には朝方……なんてことも珍しくなかったわ

娼婦って一見ラクそうに見えるけど、とっても気を張る必要があるお仕事なのよお

相手のご機嫌取りはもちろん、触れてほしくない話題を探ったり……話を合わせるために慣れない勉強もしたりしたわあ

そしてそれに加えて……自分の身を守る為の勘が必要なの

そうねえ……例えばグラスの中身がすり替えられてるかも、とか

呼び出された家の窓や出口が固定されてるかも、とか

そういうのに気づく勘が、ね

……ふふ、気にしすぎだっと思う？

でもね、今の例えは実際にあったことなのよお

悪い人達はアタシを手に入れるために、そんなことまでしてくるの

本当に人って不思議ねえ

とっても親切そうな人でも、一人の女を手に入れるためにそんな危険まで犯しちゃうんだもの

14

そしてアタシを狙う人は、街中にも潜んでる

それがアタシが冒頭に言った、荒くれ者のことよお

アタシはその日お仕事が長引いて、帰るのが朝方になっちゃったの

辺りはまだ薄暗くて人もいない……アタシは疲れてたから、一刻も早く家に帰  
りたかったの

だからでしょうねえ

普段は使わない路地裏の近道を通ってしまった

昼頃はガラの悪い男がうろついてるんだけど、朝方なら誰もいないだろう……  
そんな油断が出てしまったの

早く家に帰って湯水を浴びたい、その一心だったんだけど……アタシはそこで、金髪の荒くれ者と出会ってしまったの

アタシはびっくりして、思わず相手の顔を見つめたの

でもアタシは何事もなかったように、足早にその男の隣を通り抜けようとした  
わあ

路地裏は狭かったけど、なんとか人が二人通れるスペースがあったの

そしてアタシが男の横を通り抜けた瞬間……彼は、アタシの腕をぐっと強い力で掴んできたわあ

そしてアタシを強引に引き寄せると、こう言うの

「アンタ面のいい女だな。やらせろ」って

あは、とってもシンプルな言葉でしょう？

想像通りの悪党のセリフって感じよねえ

でも実際に言われてみると……とっても怖いの

辺りは薄暗くて、誰もいない

風の音だけが鳴る路地裏で、アタシはたった一人

逆らったら間違いなく酷い目にあう……そんな確信がアタシにはあったわあ

だからアタシね、彼に従順な態度をとることにしたの

アタシはあなたに逆らいません、仕事帰りの……ただの従順な娼婦ですって

それを証明するように、アタシは彼の腕を握り返してこう言ったわ

「あらあ……アタシもちょうど相手が欲しかったの」って

その時の彼の興奮した顔……ホントにお猿さんみたいだったわあ

息を荒くしてアタシの肩を掴んで、必死に顔を近づけてくるの

その瞬間……ああ、この人もいつものお客さんと似たようなものなのねって…

…そう感じたの

そうすると不思議と緊張感が無くなって……目の前の彼が、とたんに小さな存

在に思えたのお

でも流石に彼の好きにさせたら、どんな乱暴な真似をしてるか分かったものじゃない

だからアタシ……ご奉仕させてくださいって、上目遣いでお願いしたの

目に涙を浮かばせて、心からそう思ってるみたいに

そしたら彼、分かりやすく機嫌が良くなって……何の恥ずかしげもなく自分のおチンポを披露してくれたわぁ

正直「あら子供みたあい」って思ったけど、決してそれは口にしなかったわぁ

17

アタシは屈むとそのおチンポを手で包み込んで、ゆっくりしごいてあげたわ

身体をぴったり密着させて、アタシの唾液をローション代わりにたっぷり塗り込んであげたのお

彼つてば、それだけで身体びくびくさせちゃって……ほんつとうに情けなかつ

たわぁ

ああ、こんなお粗末なものでアタシとやる気だったのねって悲しくもなっただけど……でも、アタシは娼婦

正直な気持ちを表に出すわけにはいかなかったわあ

アタシは彼の子供チンポをおつきさせてあげた後、ゆっっくり皮をめくってあげた

そうしたらぷりぷりしたくっさい亀頭が出てきて……なんかム力ついたから、

アタシの吐息を思いっきり吹きかけてやったわあ

そしたら彼、どうなったと思う？

いきなり「あぁっ……」とか言っつて、腰を震わせ出したの

アタシもう笑いをこらえるのに必死で……こおんなよつつわいチンポで何をするつもりだったんだろうって……つい真面目に考えちゃったわあ

18

でも彼がそうなるのも仕方ないわよねえ、相手はアタシなんだもの

どんな男だろうとアタシにかかれば赤ちゃん同然

……もちろんあなたも、ね

あら、あなたも今ビクッてしたわねえ

でもいいのよ、アタシはどんな男だって受け入れてあげるわあ

それが例え、よつわゝい男の人だったとしても、ね

……ふふ、話を戻しましょうか

それで息を吹きかけた後なんだけど……アタシは彼の亀頭をただひたすらに責め続けた

指先でリングを作って、舌でチロチロ舐めながらゆっくりしごいてあげたのお一度上下するたびに彼の股は開いていって……それを五分続けた頃には、彼はつま先立ちになって必死に声を抑えてたわあ

こうなってくると、もうどっちが女の子なのか分からなくなってくるけど……アタシはかまわずに亀頭を責め続けた

19

彼の腰が砕けるまで、彼の理性が溶けちゃうまで……ずっとね

そうして十五分くらい経った頃かしら

彼は勢いよく射精して、息も絶え絶えにその場にへたり込んだの

膝をガクガクさせて……イカされちゃった女の子みたいに

あの時の優越感、最高だったわあ

アタシよりも屈強な男が、弱いアタシの技術で腰砕けになる

それもひいひい泣いて、ね

男って、最高に弱い生き物……あなたもそう思わない？

あは、またビクッてした

ごめんなさいねえ、今のは冗談よお

でも、あなたもそう思っちゃう場面があるんじゃないかしらあ？

例えばこの場の主導権を全部アタシに握られちゃってる今、とか

……ん？言い返せないみたいねえ

でもいいの、それは仕方ないことだから

アタシの前では、どんな男も赤ちゃんに戻っちゃうんだから

だから、ほら……今日はもう、おやすみの時間よお

今回の話は、ここでおしまい

アタシは彼が悶絶している内にその場を脱出し、無事家に帰ったわあ

そうして何とか危機を切り抜けたアタシは、またいつもの日常に戻った

それが話の大筋よお

……あなたを楽しませようとゆっくり話したら、もうこんな時間になっちゃったわあ

アタシはまた明日も業務があるから、今日はここで切り上げさせてもらうわねえ

じゃあまた明日、元気な顔を見せてねえ

それと、今日の話は……誰にも内緒よ

いいわねえ？……それじゃあ、おやすみなさい

## 2話（裏）

……はあ……はあ……分かったから落ち着いて？ね？

ちゃんとあなたのおチンポしごいてあげるから、そんなに焦らないでちょうだ

い

大丈夫、逃げたりしないわあ……あなたの欲望、発散させてあげる

アタシの手コキで気持ちよくしてあげるから……って、やっぱり大きいわねえ

これまで相手してきたお客さんの中でも、ここまで大きい人は中々いなかった  
わよお

……さて、それじゃ早速……きやつ！？

ちよ、ちよっと！いきなり何するのよ……え？

手コキじゃなくてフェラがいいの……？そ、それは……無理よ

だってあなたの、アタシの口に入りそうにないものお

だから手で我慢してちょうだ……んぶう！？



……んぶう……ふうう……ん、ぶじゅ……んぶう……！

……ぶじゅ……じゅぞぞ……ん、ふううう……じゅぞ……！

ん、ふううう……ぶあぁっ！

ふううう……お、あぁ……ん、ぐうう……！

ん、ふ……はぁぁ……あっ……口のなか、見ないでえ……！

はぁう、はぁぁ……あなたの精液、クサすぎるわよお……！

かはっ……はう……ふぁぁ……！

精液の匂いで、頭、クラクラする……はぁ、もう、終わり……え？

な、なんでもう大きくなってるのお？

い、今出したばかりで……ちょ、ちょっと待って

も、もう無理……無理だってえ……！もうやめ……おごぉっ！

### 3話（表）

こんばんわあゝ

いきなりこんなこと言うのもなんだけど……昨晩は、お楽しみでしたね

あはっ、あなたの一人遊びの声、ちゃんと聞こえてたわよお

この宿の従業員は交代制で夜の見回りをするんだけどお……昨日はアタシの当番だったの

昨日あの後……興奮が収まらなかったんでしょお？

アタシを呼ぶ声が聞こえたから、つい聞き耳をたてちゃったのお

ごめんねえ……でも、あなたがまたこのサービスを利用してくれて嬉しいわあ

あなた、反応が可愛いから話していて楽しいもの

アタシ好みの素直で可愛い男の人……あなたみたいな人には、たくさんサービスしてあげたくなっちゃうわあ

娼婦みたいなことは出来ないけど、膝枕とかなら全然大丈夫よお

あ、せっかくだし、今日は膝枕しながらお話してあげましょうか？

特別なお客さんにしか話さないアタシの過去……あなたには特等席で聞かせてあげるわよお

昨晚盗み聞きしちゃった謝罪もかねて……ね？

それならいいでしょう？

……あはっ、まんざらでもないって感じね

それじゃ、今日も早速始めていきましょう

26

ほら、まずはベッドに寝そべって……アタシの太ももの上に頭を乗せてちょうだい

そうそう……お利口さんねえ

身体力を抜いて、リラックスした状態で聞いてねえ

今回はね、アタシが親戚の家に遊びに行った時のお話よお

血には抗えないっていうか……アタシの親族には、娼婦出身の人が多いのお

その影響が分からないけど、親戚の家には甥っ子やら何やら子供がたくさんいてね？

たまに遊びに行くと、子供達にもみくちやにされてもう大変なお

おんぶだったり抱っこだったり……アタシの母性に惹かれてるのか分からないけど、皆凄い勢いでアタシに突撃してくるの

でも子供達は大人達と違って、アタシの身体を目当てにしてるわけじゃないわただ純粹に母性や愛情を求めて、アタシに押し寄せてくるのお

それってとっても可愛いわよねえ？

27

だからアタシもつい甘やかしちゃって……ぎゅーって抱きしめたり、一緒に寝てあげたりしちゃうの

おっぱいを触られちゃうこともあるけど、相手は子供だしまあいいかって流すことも結構あったわあ

でも、たまに違和感を感じることもあったの

皆がアタシのところに押し寄せてくる中、それに乗じてアタシのお尻をまさぐってきたり

抱っこをしてあげたら執拗におっぱいに胸をつずめてきたり

アタシがお風呂に入っているとところを覗こうとしてきたり……そんなことをしてくる子供がいたの

その子は妹の子供だったんだけど、なぜかアタシに強い関心があったみたいで

……果てには、ベッドに潜り込んでアタシの身体をまさぐってたのよお

ホントに困った子よねえ

妹もその子には手を焼かされてるみたいで、アタシに助けを求めてきたわあ

そういう一線を越えたようなイタズラが多くて本当に困ってるってね

だからアタシ、妹を助けてあげることにしたわあ

実際アタシの方にも手を出してきてるわけだし、このままじゃその子に変な大人になっちゃうと思ったからねえ

教育……してあげようと思ったのよお

とは言っても、その子に何か罰を与えようとしたわけじゃないわあ

その子のプライドを……へし折ってあげようと思ったの

どろっどろにあまゝい大人の蜜で、ね

まずアタシはその子を誘い出すため、いつもより早くベッドに入ったわ

今日は疲れたから早く寝る、とか言ってるねえ

そうすれば他の子は近づいてこないでしょお？

……近づいて来るのは、わるゝいその子だけ

アタシが息を潜めて寝たふりをしていると、予想通りその子が来たわあ

はあはあ息を荒げて……実際に見てなくても、興奮してる様子が伝わってきた

彼はゆっくりとベッドに潜り込むと、アタシの身体をゆっくり撫でてきたの

アタシは寝る時薄着だから、彼の手の感触が直に伝わってきて……ちょっと悔

しいけど、思わずぴくんって反応しちゃったわあ

だって彼の手つき、凄くいやらしくて……女を期待させるような触り方だったもの

でも、まだアタシが起きてるって気づかれるわけにはいかないわあ

だってその子、逃げ足がとっても早かったから……気づかれたら逃げられちゃ

いそうだったもの

だから……必死にこらえたわ

胸を何度揉まれても、アソコに顔をうずめられても、太ももを何度舐められても……なんとか耐えて、チャンスを待ったの

そしてついに、その時は来たわあ

彼は胸を揉むだけじゃ物足りなくなったのか、アタシの乳首に触ろうとしてきたの

アタシのキャミソールに手を差し込んできたその瞬間……アタシは彼の身体を強く抱きしめたのお

アタシのやわらかくいおっぱいと、おっきな太ももで彼の身体全体を包み込んで……わるくいタズラっ子さんを捕獲してあげたわあ

あはっ……その時の彼、全く身動きが取れなくなって……胸の谷間からうつすら見えた彼の顔、本当によわくいオスの顔だった

いくら好き勝手やっても、一度捕獲されればもう後は捕食されるのを待つだけ……哀れよねえ

アタシは彼の顔をおっぱいで挟んで、何度も押し潰したわあ

その度に情けない吐息が聞こえてきて、膝をガクガク震わせるの

アタシは彼が快楽を逃せないように、太ももで彼の下半身を包んで……ぎゅう  
ううううって、おチンポごとホールドしてあげたのよお

そうしたら彼、次の瞬間にはぴゅっぴゅっって情けなくお射精しちゃって……  
すっごく必死そうな顔が、谷間から見えたわあ

でもそんな顔されても、アタシの教育は始まったばかり……アタシは息も絶え  
絶えな彼をおっぱいから引き上げて、乳首を優しくカリカリしてあげたの

耳を甘噛みしてあげるとびくんって跳ねて、それはもう女の子みたいだったわ

31

あ

あ、やっぱり男の子って、少し教育してあげれば女の子みたいになっちゃんだ  
くって心から実感したの

それでそこからはねえ……ふふ、彼、アタシの愛玩人形みたいになっちゃった

ほじったらすぐにイク雑魚乳首に改造して……そこからは夜が明けるまです  
つと乳首責め

おっぱいと太ももで彼を拘束して、無抵抗のまま、たろつぷり乳首をいい子いい子してあげたのお

アタシのよだれをローション代わりにして、蜜みたいに彼の身体に塗りたくったわあ

乳首を弾く度に彼のおチンポがだらだら我慢汁を流して……乳首をきゅうううって摘まむ度にメスイキする……ね？おもちゃみたいでしょお？

彼は甘い蜜を求めてアタシのベッドに潜り込んだんでしょうけど……そこが蜘蛛の巣だとは知らなかったみたいねえ

夜が明ける頃には、その子は抜け殻みたいになってて……そこからはもう、ア<sup>32</sup>タシや妹にちよっかいをかけることは無くなったわあ

でも教育しすぎちゃったのか、彼はその後、自分一人じゃイケなくなっちゃったみたいで……頻繁にアタシの部屋を訪れるようになったのお

仕方ないからその度に教育してあげてるんだけど……いつか、本当の女の子になっちゃうんじゃないかって心配してるの

…ね、あなたはと思う？

あはっ、びくんって跳ねた……可愛いわねえ

あなたを見てるとついそそられて……教育、してあげたくなっちゃうわあ

……ふふ、冗談よお

あなたは立派な大人なんだから、教育してあげる必要なんてないわあ

ま、教育じゃなくて調教されたい……っていうんなら話は別だけど、ね

……つと、もうそろそろいい時間帯ね

はい、じゃあ今日のサービスはここまでよお

あなたも起きてちょうだい

33

まだ話していたいとは思っけど……明日もまた、やらないといけないことがあるから

時間があればまた、今日と同じ時間にこの部屋に来るわあ

だからあ……夜はあまりフラフラせず、アタシが来るのを部屋で待ってて？

いいわね？ワンちゃん

……んふ、この呼び方、あんまり違和感なくなってきたわねえ

それじゃあ、アタシはもう戻るわあ

おやすみなさい……良い夢を

### 3話（裏）

……すー……すー……すうー……すうー……あ、来たわね……

……よし、いつも通りなら、このままベッドに入ってくるはず……わるしいイ  
タズラっ子さんに、たっぷり教育してあげるわあ

イタズラしてきたところをガバっと、ね……

……ふふ、来たわね……いつも通りならまず胸をゆっくり揉んでくるはず……

その隙について……

んふっ！？

ちよ、え……？君、なに……んっ、んふうっ！

い、いきなり乳首触ってくるなんて……おかし、いいっ！？

や、やめなさい！そんなの許した覚えはないわあ！

少し触れるくらいなら見逃してあげたけど、これは流石にだめよお……あん

っ！？

ちよっ、だめえ……！乳首いじめちゃ、だめよお……！

んっ、はっ、はぁっ、んひい……！な、なにこの子……手馴れてる……！

ち、力が抜けて……はぁっ！先っぽくりくりしちゃ、嫌ぁ……！

ふううっ、んうう、んふっ、やぁぁ……！

あっ、あぁっ、あぁぁっ……ねちっこいい……！腰、浮いちゃう……！

ね、ねえ、君、いい加減に……あはぁっ！あっ！ふぁぁっ！

いやっ、乳首吸っちゃだめえ！出ない！母乳なんて出ないから！

ちよっ、うぐうう……！うっ、あっ、ふぁぁっ……！

あっ、はっ、んぎっ、んっふ、うんん……！

あぁぁ……！はっ、はぁっ、ふぁぁぁ……！うっ、んぁぁ……！

あん……も、もう乳首いじめるのやめてえ……！

もう、十分満足したでしょ……？

だからもう離し……んくっ！？っつ、つめた……！

い、いま何を垂らしたのお……？お、おっぱいに何かかけたわよね……？

いったい何を……はぁっ！？はっ、はぁぁ……！む、胸が熱い……！

乳首が、はち切れちゃいそう……！君、何を……何をしたのよ……！

……び、媚薬？

そんなの、誰からもらって……やあんっ！はっ……あぐああっ！

い、今は吸っちゃだめえ！おっぱい、変だから……あはあああっ！

んぐううううーあっ、がっ、ひうううっ、んぎいいっ！

あうっ、うああううーあっ、やっ、ああああっ！あぐうううっ！

あんんん……！んふうっ、あはああ……！

こ、こんなっ、こんな子に好き勝手されるなんてえ……

きみ、許さな……ああああっ！？ち、乳首噛んじゃだめええ！

あああっ！ちよ、まっ……あぐうううっ！ああっ！？んふううっ！

い、イくら……！いぐうう……！

イツ……ぐ……！

こ、こんな子にイカされ……ああああああっ！？

あっ！あはああっ！うああああっ！んっ、ぐううう……！！

かつ……！はあ……！あっ……ああっ……！

んああ……はっ、はああ……！ううう……！

い、イカされ……ちゃったあ……！

こな、子に……！

はあ……ああ……さいあ、く……あっ……ああ……！

#### 4話（表）

こ・ん・ば・ん・はく

あはっ、嬉しそうな顔ねえ

そんなにアタシが来るのが待ちきれなかったのお？

というか……前の晩はあなたの声、聞こえてこなかったわねえ

アタシに言われたから、一人するのが恥ずかしくなっちゃったのお？

あら……気にすることないのにい

39

アタシ、男の人の情けなくい声大好きだから……全然気にせず、声あげてシち  
やってもいいのよ？

……ん？アタシには情けないところ、見せたくないのお？

あはっ、それはもう手遅れだと思うけど……ま、いいわあ

早速今日もサービス、始めていきましようかあ

ん、そうねえ……今日は……あなたのすぐ横で、お話してあげるわあ

こうしてると、恋人みたいで……すっごくドキドキしない？

んふ……えい

あはっ、すっごい驚きよう

少し肩をつつただけなのに……どれだけ緊張してるのお？

そんなに緊張しなくなつて、アタシはいつだってあなたに優しくしてあげるわ

よお

でもその緊張がとれないって言うなら……アタシがじっくり、解きほぐして

あげるからねえ

じゃ……始めましょうか

今回は、とあるお金持ちのお客さんの話よお

そのお客さんはとっても性欲が強い方だね？

元はこことは違う都市に住んでたみたいなんだけど……アタシの噂を聞いて、

わざわざこっちに来たらしいわあ

あ、噂っていうのはアレね？

とおってもキレイで、妖艶な娼婦がいるっていう噂ね？

それを聞きつけた彼は、アタシ目当てに職場の娼館に何度も通い出したのお

彼は信頼を植え付けるように、職場の仲間達に丁寧な態度で接していたわ

時おりジョークを混ぜたり、チップを与えたりして……彼の見た目はいかにも  
お金持ちのおじさんって感じだったんだけど、いつの間にか彼の印象は優しく  
て面白い人っていう風に変わっていったわあ

アタシはどうにも引かかって、警戒していたけど……会う回数が増えるた  
び、その警戒は少しずつ薄れていった

職場の仲間達も、彼に対しての警戒はほとんど無かった

……そして皆が彼に気を許した時、彼は仕掛けてきたわあ

娼館には呼び出してという制度があってね？

ある程度、娼館からの信頼を得ているお客さんは……好きな娼婦を、家に呼び  
出すことが出来るのお

このお客さんなら、娼婦をひどく扱ったりしないだろう……そういう信頼で成  
り立つ、特別サービスよお

まあ、昔は段階を踏まずに娼婦を色んな所に派遣してたみたいけど……壊されちゃう娼婦がたくさんいたみたいで、そこからは段階を踏むようになったの  
娼館からの信頼を勝ち取ったお金持ちのお客さんは、その呼び出し制度でアタシを指名したわあ

ま、アタシ目当てで娼館に通っていたんだから分かってはいたんだけど……いざ指名されると、嫌な感覚を覚えたわあ

でもその時のアタシは彼の本性を知らない……きっとアタシの杞憂だろうと思って、彼の屋敷に向かったわあ

彼の屋敷はとっても大きくて……本人はただの別荘だって笑ってたけど、アタシには想像もできないような大きさだったの

屋敷に入った後、アタシはリビングに案内されて……精一杯のおもてなしを受けただわあ

贅沢な料理、高級なお酒、踊り子のダンス……初めは何か仕込まれているんじゃないかと疑ってたけど……一通りのおもてなしが終わる頃には、その疑念もほとんど無くなっていたわ

そしてワイングラスの中身が空になった頃、彼はこう持ち掛けてきた

お風呂で身体を流してくれないか……って

アタシは娼婦と呼ばれたわけだから、もちろんオッケーしたわあ

ちょうどサッパリしたかったから、汗も流せて一石二鳥だって思ってたね

で、そのままお風呂場に行って彼の身体を流したんだけど……どうにも、空気が変なの

ほら、熱いお風呂って、湯気がもわーってしてるじゃない？

彼の屋敷の浴場も同じように、湯気がたちこめてたんだけど……なんか、  
43変な

香りがするの

いつものアタシなら、そこで違和感を持ってたんでしょけど……その時は酔いが回ってたから、些細なことは気にしなかった

酔いが回ってたって言うても……少しポーっとするくらいよ？

ちゃんと頭は回ってたし、危機感を持ってた

でもアタシは、どこか彼を信頼してしまっていたんでしょね

この人は性欲はあっても、悪いことができる人じゃない……って

……その認識が間違っていたと知るのは、そこから一時間くらい経った後かし  
ら

浴場で彼の身体を流していたアタシに、強烈なふらつきが襲ってきたの

頭がふらふらして、視界が安定しない

手元もおぼつかなくなつて、ついには……アタシ、浴場で気絶してしまったの  
おぼろげながら覚えているのは、彼の心配するような声と……吊り上がった口

角

意識が目覚めたのは、そこらしばらく経った後よお

あれ、アタシどうしてたんだっけ……なんて呑気なことを考えながら、アタシ  
は目をこすった

そうしたらね？見知らない部屋の天井があつたの

薄暗い照明がついてて、どこか肌寒くって……でも、なぜかお腹のあたりは温  
かい

アタシ、今どいう状態なの？って視線を下に向けた瞬間……一瞬、思考が止まったわあ

だってアタシ……あの金持ちのお客さんの上で必死に腰を振ってたんだものお……んふ、驚いたあ？

でも、一番驚いたのはアタシよお

思考は止まってるのに、アタシの身体は搾り取るように彼の肉棒をしごいてるんだから

むせ返るようなオスの匂いと、部屋に響く「ぱちゅん……ぱちゅん……」って

音

45

ま、いわゆる騎乗位ってやつねえ

どういふことが分からなくて、しばらく呆然としてたけど……次第に状況が把握できてきたわあ

ま、簡単に言えば……お風呂場の湯気に混ぜられてたのよ、睡眠薬が

アタシにそれに気づかず、浴場で何度もその空気を吸った……思えば、彼は身体を洗われる時ずっと俯いて、なるべく空気を吸わないようにしてたわ

まんまと空気を吸ったアタシは気を失い、そのまま彼の寝室に連れていかれた

……そして衣服を脱がされ、挿入を許したってわけ

いつものアタシなら、絶対にしないようなミスよお

でも……彼の時間をかけたアプローチに警戒を緩めちゃったアタシは、彼の毒牙にかかった

これまでの親切な態度も、面白い人という印象も全て嘘……アタシをハメるためだけに、彼がうったお芝居だったのお

それで挿入を許したアタシは、ほぼ無意識的に腰を振ってた……娼婦としてのこれまでの経験から、自然にそうするようになってたんでしょねえ

46

それで、そこから先なんだけど……どうなったか、分かる？

毘にかけられたか弱い女がどうなっちゃったか、分かるかしらあ？

彼のオンナにされた、性奴隷にされた、屋敷の召使にされた、口答えも許されない肉便器にされた……どれが正解だと思う？

んふ……ぶつぶー、どれも不正解よお

正解はあ……アタシが彼のご主人様になった、でーす

あはっ、想像つかなかったあ？でもね、これは事実なの

アタシを毘にハメるまではよかったんだけど……彼には、アタシをオとすだけのテクニクは無かった

彼は欲望とお金だけは一人前の、おっきな子供だったのよお

意識を取り戻したアタシは一瞬混乱したけれど……すぐに切り替えて、彼をアタシのテクニクで骨抜きにすることを目的にしたの

そうすれば、彼に隙が生まれて主導権を奪える……アタシはこれまで培ってきた技術を総動員したわあ

アタシのおマンコで彼の肉棒を根元から搾り上げてえ……

勢いよく「ばちゅん！」って腰を振り下ろすの

それもリズムを変えながら、ね

アタシのおマンコ、よく名器って褒められるんだけど……一度おチンポをくわえ込んだら、ぬとおろって吸いついて離さないみたいなのお

それくらいヒダの吸着力が凄いらしくてえ……彼のおチンポを飲み込むみたい  
に、アタシの中ですっごくうねってたのが分かったわあ

アタシの意識が目覚めたことで、膣も急激に動き出したみたいだね？

彼、アタシが目覚めた時は余裕そうな笑みを浮かべてたんだけど……膣内の動きが変わった瞬間、急に苦しそうな声をあげだしたの

さっきまでアタシを食べようとしてたわるゝい男が、急に弱々しい声をあげて悶え始めたのよお

彼は慢心してたんでしょね、自慢のおチンポさえアタシにぶち込めばどうにかなる……って

確かに彼のおチンポはとっても太くて大きかったけど、それだけじゃアタシは堕とせない

アソコが大きいだけの男なんて、アタシは何人も経験してきたわあ

でもどの男も、最終的にはアタシのおマンコに飲み込まれて……アタシに搾り取られるだけの奴隷になるの

もちろん彼も例外じゃなかったわあ

初めはアタシに抵抗しようと必死だったけど……一時間も経てば、抵抗する意思もへし折れる

途中から乳首もいじめてあげたら彼、「も、やめ……うあああ……」とか女の子みたいに泣きだしちゃったの

かわいそうだなうって思ったけど……アタシを毘にハメたわけだし、仕返しされても仕方ないじゃない？

ということでアタシは、ピストンの速度をさらに上げたわあ

乳首も片方だけじゃなく、指と舌で両乳首をたぐつぷり可愛がってあげたの

そうしたら彼、ベッドの上でビクビク跳ね出して……

情けなく「ぴゅっ、ぴゅるる……」って射精失敗しちゃったのよお

あはっ、まるでおもらししちゃった子供みたいよねえ

ついにはヨダレを垂らして伸びちゃったんだけど……このままじゃ、またいつか何か仕掛けてくると思って、今回で徹底的に主従関係を分かせてあげようと思ったの

何をしたかって言う……ま、簡単に言っちゃえば朝までハメ倒しコースよねえ

彼のおチンポが勃たなくなるまで何度も何度も絞り尽くして、アタシが上だっ  
ていうことを徹底的に頭に刷り込むの

一方的に無慈悲にイカされて、自分はこの人の気分次第でどうにでもなっちゃんだゝって信じ込ませるのよお

それを丁寧に、じっくり時間をかけて一晩中……夜が明ける頃には彼、従順な子犬みたいになってたわあ

アタシが何かしようとする度にビクっとして、許しを請うように縋ってくるの

……ああ、思い出すだけでもゾクゾクしちゃうわあ

まあそんなわけで、彼はアタシに従順な犬になった……それ以来、彼はうちの娼館に来ることはなくなったの

その代わり、アタシと個人的に会うようになったわあ……調教して、しっかり  
50  
牙を抜くためにね

あはっ……どお？アタシのこと、怖くなったあ？

……え？より魅力的に見えるようになったあ……？

……フフっ、フフフっ……あははっ、何それえ……！

あなたって本当正直で……可愛いわねえ

もしかしてさっきの話、お金持ちのお客さんのこと羨ましく思ってたあ？

自分も犬になりたいって、そう思ってたか？

あはっ……やっぱりあなた、才能あるわあ

アタシのワンちゃんとしての才能が……ね

初めの方でアタシが大丈夫そうって言ったのは、あなたのそういうところに何となく気づいてたからよお

酷く扱われることに喜びを覚える……マゾなお客さんだってね

でもあなたが本当に望んでいるのはワンちゃんじゃなくて……アタシの恋人、だったりするのかしらあ？

……もしそうなんだとしたら、心配することはないわ

だってアタシ、昔あなたに………はい、続きはまた今度

あはっ、焦らすようなマネしてごめんねえ

だって楽しみはあとにとっておいた方がいいでしょ？

だから今度……最後のサービスをする時にお話ししてあげる

それまでは、色んな妄想をして待っててちょうだい

……お姉さんとの、約束よお？

じゃ、またねえ……ワ・ン・ちゃん♡

4 話（裏）

ん、む……んう、ここは……？

身体、揺れて……なんか、熱い……

あれ……？ちよつ、ええ……！？

こ、これ、どういう状況なの……！？

ど、どうしてアタシがあなたの上で、腰振ってるの……！？

た、確かアタシ、浴場で眠くなつて……それで……それで……あれ？

……も、もしかしてあなた、アタシに何か仕込んで……！？

て、ていうか身体、あつ……！

なんでアタシの身体、こんなにうずいてるの……！？

か、勝手に腰振ってるし、あなた媚薬でも仕込んだんじゃ……ああうつ……！？

ちよ、つ、突き上げないでえ……！

い、いま身体、ヘンなのよ……！

誰かさんのせいで、ねえ……！

と、とりあえずいったん止めて……あぐうんっ！？

だ、だから突き上げないでっ……くああっ！

あっ！ああっ！あぐああっ！んふうっ！んぐううんっ！

あんっ！うんっ！ひぐうっ！うあああっ！あんんぐっ！

わ、分かった！分かったからあ！

さ、させてあげるからあ！

だから、せめて……アタシのペースでさせてえ……お願いだから……！

いいでしょお……？……ね？

よ、良かったわあ……ちゃんとあなたを満足させるから……！

だからこのまま……ううんっ！

あ、アタシのおマンコで、あなたを気持ちよくさせてえ……！

精一杯やるから……んんっ！んっ！ふううっ！

あつ、うんんっ……ふああっ……！

んっ、んんんっ、うっ、うんっ、うんん……！

あんっ、うあっ、んふうううっ……！

お、大きい……！それに、太いわあ……！うああ……！

ナカ、きつきつになつて……くる、しい……！

で、でも、負けな……あゝあゝあゝっっ！！？

ちよ、ちよっと待ってえ！

い、今はアタシが動くつて……ふんゝんゝんゝっ！？

んゝっ！あゝんっ！あゝあゝあつ！ふあゝあゝああつ！

んひっ！？ま、まって！まつ……あゝはああんっ！？

おうゝっ！あゝっ！ひあゝああっ！んぐっ！ひうゝうう！んぐあゝああんっ！

あゝっ！あゝっ！あゝあゝあつ！んあゝああううっ！

んっ！あゝああっ！あゝんっ！あゝはああっ！

な、ナカ、えぐれてるからああ！

とまって！い、いったん止まってええ！

腰、抜けちゃ……んぶううっ！？

んっ！ぶじゅうっ！んんんっ！んぶううっ！んむううう！

んじゅっ、ぶじゅるるっ！んぶっ、ぶじゅううっ！んっふう……！

んむ……じゅぞぞお……んぶふう……ぶあっ……！

はあ……はっ……！はああ……！

あ、あなたあ……こんなことして、ただですむと思ってるのお……！

いくらあなたがお金持ちでも、絶対許さな……いいんっ！？

あ、あなたねえ……い、今はアタシが話して……いあゝあああっ！？

あんっ！？あゝはああっ！あゝんっ！やあゝああんっ！あゝううううっ！？

んっ！あゝああんっ！あゝはあああっ！んあゝああっ！？

や、やめっ……ぶじゅうううっ！？

んぶううううっ！んじゅっ！んぶううううっ！じゅぞぞおっ！

んじゅっ、んぶああううううっ！じゅぞっ、じゅぞぞおおっ！



あゝっ、っ、はああ……！ーい、い、べっ……！ーもっいべっ……！

いべっ、っ、いべっ、い、い、い……い……あゝあゝあゝあゝ……！ー！

……あゝっ……はっ……！んふう……うゝっ……！んっ、んべっ……！

んうゝゝゝ……あゝっ……！かはっ……うゝ、ふう……！

あゝ……あゝあゝゝゝ……！ーうゝあゝあゝ……あゝあゝ……！

5話

はい、お待ちとおさま

あなたのだ〜い好きなアルノアさんの登場よお……って、あらあ？

あなた、わざわざ正座して待ってたのお？

あはっ、躄けのなったワンちゃんねえ

それとも、今回が最後だって言っただから緊張してた？

何か特別なことが起きるんじゃないか……って

59

……んふ、前回アタシが思わせぶりなこと言っただから、そう思っちゃうのも仕方がないわよねえ

前回から1週間以上空いちゃったし、そろそろ我慢の限界だったんじゃない？

あなたのその切なそう〜な顔が全てを物語ってるわよお

……心配しなくても大丈夫、これ以上焦らす気は無いから

これからあなたに……最後のサービスを提供するわあ

じゃあ、今日は……ふふ、アタシの腕の中で、お話を聞かせてあげる

ほおら、そんなにかしこまってないで……早くおいで？

アタシの話をずっと聞いてくれたお礼に、たろっぷり甘やかしてあげるから

うん、そうそう……緊張しないで……ほら、アタシに身を任せて

……んふ、まるで母親と子供みたいねえ

身体の大きさはあまり変わらないのに、あなたが小さく見えるわあ

でも、身体はちゃんと男の人って感じ……そう思うと、なんだか急にこっちが

ドキドキしてきちゃったわ

でも、この体勢でお話ししようって言ったのはアタシだからね

その発言の責任はきちんと果たすわあ

……じゃ、最後のお話……始めちゃいましょうか

んーと、今回はねえ……とある青年とのお話よお

今回のお話はこれまでと違って、爽やかなお話……純愛、とでも言っておきま  
しょうか

アタシにとって、甘酸っぱい思い出……これは、アタシが娼婦になったばかり

の頃のお話よお

娼婦になった頃のアタシは、誰に対しても敵対心剥き出しで……身体に触れて  
こよとする男達を、蹴ったり殴ったりしていたの

あはっ……想像つかないでしょお？でも本当なの

アタシは親に借金を押しつけられたまま売られて娼婦になったものだから、そ  
のことに對する怒りや憎しみを常に抱えていた

周りの人みんなが敵に見えて……いつも暴れては逃げ出していたわあ

狂犬だの何だの言われて、見た目だけは良かったから最終的には“暴れ姫”な  
んて呼ばれてた

61

こんな世界なんて嫌い、こんな冷たい人達なんて嫌い……何度も逃げ出す内に  
アタシはどんどんと一人になっていった

でも働かないと、生活するお金も無くなっていく……アタシは腹をくくって、  
胸だけなら触りオッケーって条件を出したわあ

たとえ胸だけでも、アタシに触れるなら喜んで条件を呑むってお客さんは多少  
いた

でもアタシ、やっぱり嫌なものは嫌だったから……胸に触られる時めちやくちや嫌そうな顔してたの

そうしたら段々アタシ目当てのお客さんも居なくなっていって……ついには、誰もアタシを指名しなくなったわあ

最低限のお給料は貰えたけど、それじゃ生活がギリギリ……人氣が無くちゃ、この先やっていけないのは理解していたわ

そんな時ね、あるお客さんがアタシを指名したの

その人はアタシと同年代くらいで、とっても純粹そうな青年だった

娼館は初めてなのか、すっごく緊張してて……震える指で、アタシを指名して

62

たわあ

受付の娼婦は「彼女、とても気難しい娘ですが大丈夫ですか」って何度も確認してた

でも、そのお客さんは「この娘がいいです」って譲らなかった……

あはっ、不思議な人よねえ

でもね？なぜかこの時……アタシも、このお客さんなら大丈夫かもって……な

んとなくそう感じたの

このお客さんはどこかアタシに似てるって、そう思ったのよお

アタシとそのお客さんは、娼館の二階の角部屋……ちやうどこの部屋と同じような場所に入ったわあ

でも部屋に入っただけはいいものの、二人とも緊張して手を出そうとしない……

これまでのお客さんは、すぐアタシに触れようとしてきてたから……触れてこないお客さんなんて、初めてだった

どうしたらいいのか分からなくなったアタシは、なぜか分からないけど……アタシが彼をリードしてあげなきゃって、そう思ったの

63

ふふっ……今考えても不思議……誰かに触られるのが嫌だったアタシが、自ら身体を触らせようとするなんて

アタシはそのお客さんの手を引いて、強引に胸に触れさせた

そうしたら彼、凄く驚いた表情になって……顔を真っ赤にしながら、アタシの顔を見つめてたわあ

アタシ、その顔を見てたらなんだか身体が熱くなってきた……気づいたら、彼

に口づけしてたの

……んふ……初対面の男性に、よ？それも、初めての口づけ

彼はもちろん、自分からしたはずのアタシも真っ赤っかになっちゃって……そこからアタシ達、何もせずに約束の時間を迎えたわあ

お互いの顔も見ずに……ただ、手だけを握り合って

娼婦としてはあり得ない、まるで初恋をした生娘のような対応……アタシ、初めてのことばかりで動揺が収まらなかった

でも……でも、ね？

そのお客さんと別れた後、アタシは確かにこう思ったの……またあの人に会いたい……って

アタシはこの時初めて、自分が恋をしたんだなって気づいた

それも一目惚れのような形で……あの“暴れ姫”が、よ？

周りの娼婦達は凄く驚いてたけど、なぜかアタシに驚きは無かった

きつと運命なんだって……心から、そう思ったわあ

その後彼が現れることは無かったけど、アタシは彼に会うために娼館で働き続けた

次第に男の人にも慣れてきて……いつの間にか、街一番の娼婦として有名になつてたわあ

でも結局そのお客さんに会うことは無いまま、アタシは娼婦を引退した

この初恋は思い出の中に留めておこう……そう、思っていたのよあ

……………あなたに、会うまでは

……あはっ、もう気づいてるでしょあ？

さっき話した初恋の相手……それが、あなただってこと

あなた、言つてたわよねえ？アタシが初恋の人に似てるって

訂正するなら、似てるじゃなくて……本人よ

アタシがあなたの初恋の人で……あなたがアタシの初恋の人

……んふ、びっくりしたあ？びっくりしたわよねえ？

だってアタシもあなたの言葉を聞いた時、とっても驚いたもの

前にあなたが泊まってくれた時はまだ確信しなかった……似てるだけかなって思ってた

でもあなたがアタシに、初恋の人に似てるって言ったこと……そして緊張した時の真っ赤な顔、消極的な態度……その優しそうな瞳

これだけ近くに来て、ようやく気付いたわあ

あなたがアタシの運命の人……初恋の人だってことに

だからアタシ、前のサービスの時に言ったのよお

心配しなくていい、アタシはあなたのこと、ワンちゃんじゃなくて……恋人として見てる

だってアタシ、昔あなたに惚れちゃったから……って

……ま、あの時はつい恥ずかしくて焦らしちゃったけどねえ

ふふ、あの時と同じ真っ赤な顔……ホントに変わらないのね、あなた

でもそれが、アタシにとっては凄く嬉しい

……あなたはどお？初恋の人に再会できて……嬉しい？

あはっ、固まっちゃったみたいねえ

全くもお、仕方がない人……でも、あなたのそういうところ好きよ……ちゅ

……サービスはこれで終わりだけど、これからは恋人としてたくさんご奉仕してあげるから……よろしくね、ワンちゃん

じゃなくて、アタシの大切な、大切な……愛しい人♡

## エピソード

……失礼するわあ

今日は、わざわざ時間をとらせて悪かったわねえ

……あなたにとあるお話を持ってきたから、それを聞いてもらおうと思って

……ふん、横暴な態度。相変わらずの態度のデカさねえ

まあいいわあ。今日を最後に、あなたとの繋がりは無くなるんだから

というのも、今日あなたとアタシは……性奴隷契約を解除するからよお

持ってきたとある話っていうのがそれ

……過去、あなたがアタシを毘にかけて、屋敷で犯した時に強引に結んだ性奴

隷契約……あなたに借金を支払ってもらった代わりに、アタシがあなたの性奴隷

になるっていうふざけた契約……！

この最悪の契約を、今日こそ解除してもらおうわあ……！

第一、アタシはあなたに借金を肩代わりしてもらった必要なんてなかった

全部、自分でどうにかできたのよ

なのにあなたは、あの時アタシの意識が無いのをいいことに……勝手に契約書にサインさせた

加えて金の力で、アタシの職場の仲間たちまで人質にして……あなたみたいな外道、見たことが無いわあ

それに最近はアタシの恋人にまで脅しをかけてるみたいじゃない……！

……もう、我慢の限界よお

あなたとの関係を断って、アタシが皆を守るわあ

もちろんタダでは言わない……アタシとイかせ合い勝負をして、先に10回相手をイかせた方の勝ちよお

これなら性欲しかないあなたの欲望も満たせるし、アタシの技術も活かせる

アタシが勝ったらアタシ含む皆への関わりを断つこと、あなたが勝ったら性奴隷契約の続行……これでどうかしらあ？

……あなたが勝った時の条件に、街中どこでもアタシを犯す権利を与えろ、ですってえ……？

……………いいわあ。その条件、呑んであげる

あなたのような外道に、アタシが負けるわけないから

ちなみにするのはこの部屋……盛った若者に人気の、薄暗い部屋よお

ここでどんな声をあげようが、お客さん達はいつものことだと思って受け流してくれる

あなたがどんな情けなくい声をあげたって、皆聞き流してくれるのよお

この部屋を選んだアタシに感謝しなさいよねえ

……んふ、じゃあ……早速始めましょうか

お姉さんがあなたのためにも弱いおチンポ……搾り取ってあげる

……………あゝっ！あゝっ！あゝあゝっ！あゝあゝああっ！

んあゝあゝあんっ！んゝっ！んぐあゝあっ！うああゝああっ！あゝあゝあゝ  
んっ！あゝっ！あゝはあっ！あゝんんゝゝ！

んゝっ！うゝんゝんんっ！あがっ！ひぐううっ！あゝっ！やああゝあっ！

いぐっ……いぐう……！

いつ、ぐうう……あゝあゝあつ！あゝんっ、あゝっ……！うあゝあ……！

いつ、イってないっ！まだイってないわあ！

あ、アタシがあなたの粗チンでイクわけ……あゝあゝあああつ！？

あゝっ！あゝああっ！おくっ、奥はだめよお！だめっ！だめええ！

し、子宮つぶれちゃうからあ！離してっ！

離し……おゝあゝあああつ！？あゝっ！あゝはあっ！んふううつ！

あゝんっ！あゝあんっ！あゝあああつ！んぐっ！うあゝあああつ！

71

おゝっ！おゝあゝあつ！いぐっ！あゝあゝあああゝゝ！またいぐうゝゝ！

いぐっ、いぐううつ、いぐううゝゝあゝああああゝゝ！うあゝああ……！

あゝっ……！あゝあつ、は……！も……もうやめてええ……！

い、イってはない、けどお……！

はっ、はああ……あ、あなたの体力が、もう持たないかと思ってえ……！

こ、この辺で許してあげようって言ってるのよお

どう？ありがたい提案で……あゝはああああんっ！？

あゝっ！ちよっ、だめっ！奥つぶしちゃ、だめええっ！

だめだつて……んぐあああああっ！あゝあっ！あゝはああっ！

んあゝあゝああゝゝっ！あゝんっ！んあゝあああっ！

いやあゝゝゝ！いぐっ、すぐイっちゃ……うゝんんんんっ！

あゝっ……！んうっ！うあゝああ……！

わ、分かったから！ほ、ほんとのこと言うからもうやめてえ！

いつでるからあ！もうすでに10回以上イってるからああ！

あゝあゝゝゝゝっ！？も、もう漏れちゃいそうなのよおおっ！

身体も限界なのっ！もうこれ以上はイケないわああ！

だからやめてええ……！

も、もう、アタシの負けでいいから……！

あ、あなたの性奴隷、続けてあげるからあ……！

これ以上されたら、ホントに孕んじゃうわあ……！

そうになったら、彼に顔向けできな……え？

ど、どうして腕を掴むのお？

これじゃ、身動き取れな……あゝつつつつ！！？

あゝっ！ちよっ、ま……！うあゝああっ！あゝんっ！あゝっ！ひううっ！

あゝっ！うあゝああっ！あゝああゝゝゝ！あううっ！んああゝああっ！

まって！まつ……あゝんんゝゝゝ！あはあっ！あっ！うああゝああっ！

んあゝっ！あゝはあっ！うあゝあああ……！

あゝううゝゝゝっ！？し、しぬう……！しんじやうわああ……！

これ以上はホントにしんじや……ぶじゅううっ！？

んふうゝゝゝっ！？んぶっ、じゅぞぞおおっ！んじゅっ、じゅるるう！

じゅぞっ、ゝ、じゅぞじゅぞううっ！？んぶっ、じゅぞおおゝゝゝじゅばあっ！

じゅばっ、ゝ、じゅぞっ、んじゅるううっ！じゅっ、ぶじゅうううっ！

んぶっ、んじゅううっ、じゅぞっ！じゅぞおおっ！じゅるるう！

んじゅううう……ぶあああっ！？

あゝあゝあゝああゝゝゝっ！？あゝっ！あゝあああっ！

あゝっ！うあゝあっ！あゝんんっ！おあゝあああゝゝゝゝ……………！

あんっ……………！あっ……………！がっ……………！はあ……………！おっ……………！

おゝうううう……………！あゝっ……………！あゝっ……………！あゝああゝゝゝゝ……………！

はっ……………はっ……………だ、めえ……………！漏れ、ちゃ……………！うゝんんゝゝゝゝ……………！

はあゝああ……………あ……………あゝあ……………おゝおっ……………！んふっ……………あゝはああ……………！

んうう……………あゝああゝゝゝゝ……………！おゝ……………ああんっ……………！んあゝああ……………！

かはっ……………ひゅーっ……………ひゅーっ……………！

これ、ホントに孕んじゃ……………あゝつつっ……………！

はあーっ……………はあーっ……………

ご、めん……………ごめん、ねえ……………

あ……………アタシ……………マゾなところもあなたと似てたみた、い……………

執拗におマンコいじめられて……………墮とされ、ちゃったあ……………

で、でもお……………アタシがあなたの恋人だってことは、変わらないから

だ、だから、大丈夫よお……………心配しないで、待ってて、ねえ……………

また、前みたい………昨晚は、お楽しみでしたねって………笑いかけてあげる、  
からあ………あゝっ………

了